

女性技術者と学生の意見交換会を開催しました。

建設業においては、他の産業よりも高齢化が進行し、若年入職者も少ない状況にあります。奈良県内では建設業就業者が減少する中、女性の就業者は増加しており、今後も女性の入職・活躍が大いに期待されています。

奈良県では、若手技術者の確保・育成支援事業の一環として、平成29年12月16日に奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～において、建設業界で活躍する様々な職種の女性技術者と、将来建設業界で入職することを視野に入れている県内女子高生との意見交換会を開催しました。



～プログラム～

- ・建設業の紹介 DVD
- ・女性技術者のプレゼンテーション
- ・質疑応答
- ・奈良県における女性活躍推進の取組について

参加校

奈良朱雀高等学校 / 吉野高等学校 / 青翔中学校・高等学校
女子生徒5名が参加

登壇者

(株)奥村組 島本恵梨子 / (株)山村組 藤本智子
(株)和光グループ本社 笠谷奈美 / 奈良県中和土木事務所 伊佐愛子
奈良県五條土木事務所 前田有希 (5名、敬称略)

女性技術者のプレゼンテーション

県内外で活躍されている5名の女性技術者の方々より

1. 「業務内容の紹介」
2. 「この仕事を選んだきっかけ」
3. 「やりがいと感じていること」

についてプレゼンしていただきました。



(株)奥村組西日本支社土木第三部 阪神青木 JV 工事所 島本 恵梨子 さん



1. 鉄道の高架工事現場で施工管理をしています。
2. 阪神・淡路大震災の被災体験から、大きい・強い構造物に興味を持ち、建設会社を志望しました。
3. 毎日少しずつ構造物ができていく様子を見ることができ、自分が考えた通りに現場が進んで完成すると、達成感があります。



「測量」、「品質管理」、「騒音測定」、「工事写真撮影」等、鉄道工事は終電から始発までの夜間の作業が多いです。

(株)山村組 藤本 智子 さん



1. 土木工場の現場で施工管理をしています。現在は「吉野町太陽光発電所造成工事」の現場を担当しています。
2. 父親が亡くなったことが一番大きなきっかけです。父親が携わっていた土木の仕事のをぞいてみたくなりました。
3. 生コンの計測した数量がぴったりだったときは小さなガッツポーズです！また、みんなで協力してできた工事が完成し、実際に形に残ったものを見たときは、大きな喜びとなって返ってきます。



上司や現場の人たちとのコミュニケーションは大事です。

(株)和光グループ本社建築設計部 笠谷 奈美 さん



1. 設計業務を担当しています。
2. 建物図面のトレース業務を通じて建築に興味を持ち、将来は自分の家を自分で設計できるように住宅設計の職種につきました。
3. 様々な制約をクリアしながら理想の間取りを形にできたときの達成感と、施主さんの笑顔がやりがいです。



今の生活の中で不便に感じているところをクリアしていくことが間取りを決める上で大事です。

奈良県中和土木事務所建築課 伊佐 愛子 さん

1. 都市計画法や建築基準法等に基づく許認可や検査・指導を行っています。
2. 高校時代に、家庭科の授業で行った住宅のプランニングが面白くて、大学の住環境科に進んだのがきっかけです。都市計画的なことにも携わってみたいという思いと、生涯働き続けるということを考えて公務員の道を選択しました。
3. もともと「働き続けたい」という希望を持っていたので、子供も持って、その成長を見守りながら働き続けられていること自体が、嬉しいことです。また、自分の経験とスキルを発揮して、的確な指導で、相手のことも考えながらスムーズに事案を処理していくことにやりがいを感じます。
自分自身が働き続けること自体が、後に続く県庁の女性技師たちの「励まし」になっていることに意義を感じます。



後に続く県庁の女性技師たちのためにもがんばります！
(写真手前より伊佐さん・前田さん)

奈良県五條土木事務所工務第二課 前田 有希 さん

1. 奈良県庁最初の所属は平城宮跡事業推進室で、公園整備事業やアプリの配信事業等ハード・ソフト共に経験しました。平成29年4月から十津川村にある五條土木事務所の工務第二課に配属され、急傾斜地対策工事や道路拡幅工事を担当しています。
2. 漠然と「ものづくり」に興味があったので大学で工学部へ進みました。
3. 工事の始まりから完成まで身近で携わることができ、自分のアイデアが実現されているのを実感できることにやりがいを感じます。私が携わった初めての事業である平城宮跡歴史公園の整備が間もなく完成するため、大変楽しみです。また土木事業は県民の方と接する機会が多く、身近でいろんな意見がいただけるので、それらを解決していくことで自身の成長へつながっていると思います。



平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」
平成30年3月24日開園！



災害復旧工事：一般国道168号（吉野郡十津川村桑畑地内）

質疑応答

コーディネーター（中和土木事務所 伊佐さん）の進行の中、女子生徒のみなさんからの質問に対して女性技術者のみなさんに答えていただきました。



Q：学生のとくに、どの分野を勉強すると良いですか？

A：・資格を取る方向がベストです。

- ・物理・数学のほか、文章作成や人に説明する上で国語力も必要。基本的に何でも勉強しておくのが良いです。
- ・本を読んだり、人と話をしたりすることも良いと思います。
- ・設計はパースが描けると施主にうまく伝わります。空間能力も大切です。



Q：高卒で働きたいと思っていますが、不利な面はありますか？

A：・本人のやる気次第です。

- ・現場に出れば最初は誰でもゼロ年生。現場に慣れることが大切です。経験工学ともいい、経験値では高卒の方が先輩となるのでプラス面もあると思います。
- ・人相手の仕事なので、この業界ではハートの強さが一番大切。家が好きという強い思いがあると相手に伝わります。



Q：塗装業に就きたいと思っています。現場でしんどかったことはありますか？

A：・現場は基本的に朝が早いので早起きが大変かもしれません。

- ・暑さ、寒さが辛いほか、日差しが強いので日焼け対策が大変です。
- ・急斜面や高いところに行くこともあるので、怖い思いをするときもあります。
- ・重いものを運ぶこともあり、体力に自信がある人は良いですし、そうでなくても周りの協力を得て対処すれば良いので、女性だからということではしんどいと思ったことはありません。



Q：小さい頃からものづくりが好きだったのですか？

A：・幼い頃から住宅広告を見るのが好きでしたが、図工は苦手でした。

- ・土木は規模が大きくておもしろそうと思っただけで、ずっと好きだった訳ではありません。
- ・絵を描くことも物理も苦手でしたが、インターンシップ等で事務職より現場に向いていると感じ、この仕事に就きました。
- ・間取りを見るのが好きでした。親が建てた家に住んでいて、色々と不思議に感じる点があり、「自分だったらこうするのに。」とっていました。



Q：女性が建設業に入職することについて親から反対されなかったのですか？

A：・まだまだ女性が少ない業種なので、周りが気を遣って親切にしてくれる面もあるので、親御さんが心配されるようなことはないのではないのでしょうか。

- ・父親は土木職なので、「おまえにやっつけけるのか。」と言われましたが、押し切った面もあります。周りが支えてくれたり、少ない女性技師ということで声をかけてもらっている環境を見て、今は「良かったんじゃないか。」とされています。

- ・父親は工事監督の下で働く作業員です。入社するとき「おまえの監督下で仕事をするのはイヤだ。」と言われました。周りの女性は自治体関係に進んでおり、親はそちらへ進むことを希望していましたが、「現場で働きたいので今の会社が良い。」と主張しました。入社当時は女性技術者として会社で9番目の採用でしたが、今は国等が女性の採用を推進しているので増えてきており、8年目にして自分の下に女性の新入社員が入りました。
- ・父親の死がきっかけで入職しました。母親は反対しませんでした。当初は事務をしていましたが、この職種に就くときは2人の娘に猛反対されました。今は理解して、家のことも手伝ってくれています。
- ・親には相談せず、結果のみ伝えました。今は親に「家を建ててくれ。」とされています。

コーディネーターからのメッセージ

この業界に限った話ではありませんが、「話ができる」ということはとても重要です。特にこの業界では話をしないと始まらないことが多く、信頼関係がなければやっていけません。

若いみなさんが、心の中で建設業を選択肢の一つとして持っていただけることを嬉しく思っており、いつか一緒に働けたらとても嬉しいです。

意見交換後、出席いただいた女性技術者のみなさんにお聞きしました。



Q：建設業界で働くことについて、女性ならではの苦勞について教えてください。

- A：・10年ほど前に一度窓口で「女なんかに分からない。男を出せ。」と言われました。（最近はないです。）
- ・体力的に差が出てくるので「他で補わなくてはいけない。」と、自分自身で気負ってしまうことがあります。
 - ・突然の雨に濡れても着替えられず、気候の変化に対応しづらいことです。また現場事務所がない小さな工事でトイレがないときや、現場からトイレが離れているとき、生理のときは辛いです。
 - ・体力的な部分は周りの人に助けをもらおうしかありませんが、設計職はむしろ女性の方が向いている部分があるので、苦勞することばかりではないです。

Q：苦勞があっても、なお、建設業界で働き続けているのは何故ですか？

- A：・この仕事は私に向いていると思っています。
- ・工事の施工前や施工中に地元の方や関係機関等との調整等、様々な苦勞はありますが、そのぶん工事が完了した後の達成感も大きいので、やる気にもつながっています。
 - ・まだまだ女性が少ない業界なので、珍しい存在なのか周りが気を遣ってくれて働きやすいです。8年勤めて女性の自分だから現場でできることや、自分の価値を見つけられたような気がします。
 - ・現場のみなさんと仕事を一緒にするのが楽しいということが一番かなあ。みんなで協力してできた工事が完成して、そのときの思い出が心に一生残るからです。
 - ・やりがいがあり、楽しいからです。自分の目標に向かって進んでいるからです。

メッセージコーナー

女子生徒のみなさんから女性技術者のみなさんへのメッセージ

- ・まだまだ建設業界には男性社会のイメージが強いので、女性技術者の活躍を心から応援しています。がんばってください。
- ・女性でもこんな仕事ができるんだとか、男性よりも活躍できるんだと知ることができて、とても良い機会になりました。
- ・とても尊敬しています。これからもがんばってください！
- ・貴重なお話ありがとうございました。自分の考えが変わったり、考え直すことができるとても良い体験ができました。これからもお身体に気をつけてがんばってください。



女性技術者のみなさんから

建設業界に進むことを視野に入れている女子学生・生徒のみなさんへのメッセージ

- ・働く場合、どこの業界でもそれなりの苦勞はあります。あとは本人のやる気次第です。いろいろな人と話し、学び、自分の器を広げていってください。
- ・女性の人数が増えているとはいえ、まだまだ少ないのが現状ですが、この業界は一人で仕事を進めるものではないので、多くの方がサポートして下さいます。不安は多々あるとは思いますが、それを伝えればどうにかしようと動いてくれる業界だと思いますので、一緒にこの業界でがんばってみませんか。
- ・将来のことを考えると迷うことも多いと思いますが、自分が一番興味のあること、やりたいことを仕事にするのが一番です。女性がまだまだ少ない業界ですが、入ってみると働きやすいかもしれません。がんばって自分の将来の夢を叶えてください。
- ・現場の経験に勝るものはないと思うので、『アホ』になって、それぞれ専門の職人さんにいろいろな技術を教えてもらい、がんばって自分のものにしてください。
- ・『男性社会』といわれているところに一歩踏み出すのはとても勇気がいりますが、その中で闘っている先輩がいるということを知っててください。



女性技術者のみなさんから同じ建設業界で活躍されている女性のみなさんへのメッセージ

- ・みなさんが働いているだけで、こちらでも元気が出ます。
- ・建設業界で働いていて、お互い女性が少ない現場で不安や悩みもあると思いますが、今後入ってくる女性のためにも、一緒に考えて、後輩たちの手本となって次世代に継ぐことができるように、がんばりましょう！

